



# たじみ監督署 安全衛生だより

## 平成22年の労働災害発生状況

### ～ 労働災害件数、前年を上回る！ ～

平成22年12月末における休業4日以上労働災害発生状況は、272件で、前年に比べ44件増加（19.3%増加）となり、平成21年の災害発生件数265件（確定値）をすでに越えています。

平成22年の労働災害の特徴をみると、6人（前年比3人増加）の方の尊い命が労働の場で失われているとともに、13人（前年比5人増加）の方が、機械に手が挟まれて切断するなどの明らかに後遺症が残る災害となり、被災者はもとよりその家族にとっても悲痛な事例も目立っています。

このような現状の中、墜落・転落災害対策、機械設備等に係る対策の徹底及び、経営トップ自らが先頭に立ち、安全衛生管理体制や安全衛生活動について点検を行い、リスクアセスメントや安全衛生教育・危険予知活動などの日常的な安全衛生活動を強化していくことが求められています。

（参考）全国の労働災害発生件数

	平成22年	平成21年	増減数	増減率
死亡者数（注1）	982人	858人	124人増加	14.5%増加
死傷者数（注2）	65,257人	64,004人	1,253人増加	2.0%増加

注1：死亡災害報告による11月末の速報値

注2：労災保険給付データ及び労働者死傷病報告（労災非適）による10月末の速報値

### 業種別労働災害発生状況（多治見監督署管内）

	平成22年		平成21年		対前年 増減数	対前年 増減率	構成比	（参考） 平成20年	
<b>全産業</b>	<b>272</b>	<b>(6)</b>	<b>228</b>	<b>(3)</b>	<b>44</b>	<b>19.3%</b>	<b>100%</b>	<b>297</b>	<b>(2)</b>
<b>製造業</b>	<b>90</b>	<b>(2)</b>	<b>78</b>	<b>(1)</b>	<b>12</b>	<b>15.4%</b>	<b>33.1%</b>	<b>126</b>	
うちパルプ・紙等	7	(1)	8		-1	-12.5%	2.6%	8	
うち窯業土石	35		34	(1)	1	2.9%	12.9%	49	
うち機械金属	21	(1)	19		2	10.5%	7.7%	39	
<b>建設業</b>	<b>40</b>	<b>(3)</b>	<b>24</b>		<b>16</b>	<b>66.7%</b>	<b>14.7%</b>	<b>36</b>	
<b>運輸業</b>	<b>20</b>		<b>26</b>	<b>(1)</b>	<b>-6</b>	<b>-23.1%</b>	<b>7.4%</b>	<b>28</b>	<b>(1)</b>
<b>卸・小売業</b>	<b>26</b>		<b>34</b>		<b>-8</b>	<b>-23.5%</b>	<b>9.6%</b>	<b>22</b>	<b>(1)</b>
<b>通信業</b>	<b>15</b>	<b>(1)</b>	<b>4</b>		<b>11</b>	<b>275.0%</b>	<b>5.5%</b>	<b>17</b>	
<b>ゴルフ場</b>	<b>25</b>		<b>23</b>	<b>(1)</b>	<b>2</b>	<b>8.7%</b>	<b>9.2%</b>	<b>26</b>	
<b>上記以外</b>	<b>56</b>		<b>39</b>		<b>17</b>	<b>43.6%</b>	<b>20.6%</b>	<b>42</b>	

本統計は、平成22年12月末日までに労働者死傷病報告により報告のあった休業4日以上の死傷災害を集計したもので、カッコ内の数は死亡災害を内数で示したものです。

構成比は小数第2位を四捨五入しているため、各業種の合計が100%にならない場合があります。

「多治見監督署 安全衛生だより」は、岐阜労働局のホームページに掲載してあります。